

表2. 項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

N=4 複数回答あり

項目 内容	スタンダードケア	プログラムドケア(一般)	プログラムドケア(母性・助産)	プログラムドケア(在宅)
A.用語数	260	48	126	58
B.コメントがある用語数	145	32	39	38
C.用語解説へのコメント数 合計	189	36	54	40
(B/A):コメントがついた用語の%値(この値が高いことは、一般消費者にとって理解しにくい用語が多いことを示す)	55.7	66.7	31.0	65.5
(C/B):1つの用語に対するコメント数の割合(この値が高いことは、一般消費者にとって理解しにくい理由が1つの用語に対して2点以上ついていることを示す)	1.30	1.13	1.38	1.05

4. 考察

1) 一般消費者による用語解説の分かりにくさ

「言葉が分からない」「日本語の訂正が必要」というコメントは、4領域ともにあった。また、「他の用語に同じようなものがある」というコメントがみられた。領域共通の分かりにくさは、日本語、使用している用語にその理由があった。

この結果は、看護の専門家が使用している用語がいかにか一般消費者の理解をえにくい状況にあるかを示唆するものである。また、看護者が看護を提供する対象に理解を得られる言葉で説明をし、内容を示していくための課題が示されたともいえる。

また、「他の用語に同じようなものがある」という指摘については、今後明確な識別をしておく必要があることを示唆している。例えば、臨床場面で実施された看護行為を電子カルテ上で選択する際に、別の階層に同じ言葉が存在すると選択の段階で迷いが生じることになったり、コーディングの際の混乱も起こりうる。明確に用語の違いを示すことは、電子カルテを活用する際には重要となる。また、専門的な看護を提供する看護師にとって、自らが提供するケアの中身＝ケアのもつ意味や質について、患者の理解を得るためにより具体的に詳細を説明していくことの必要性が今回の結果からも示唆されたと考えられる。

2) スタンダードケア、プログラムドケア(一般)、プログラムドケア(母性・助産)、プログラムドケア(在宅)の4領域ごとの一般消費者による用語解説の分かりにくさ

4領域の用語解説が、一般消費者にとって分かりやすいものであるかを検証した。その結果、看護の専門家によって検討を重ねたにもかかわらず、消費者にとっては内容をイメージ化するには困難な用語解説であることが示唆された。

わかりにくさの特徴として、スタンダードケアの用語においては、「分かりにくい」というコメントはついてはいたものの、日常的に目している用語も含まれており、用語と用語解説の不一致を指摘するものが多かったと考えられる。

また、プログラムドケア(一般)とプログラムドケア(母性・助産)においては、分かりにくい用語解説の数が多く、わかりにくい理由についても分散していた。その理由として考えられることは、プログラムドケア(一般)に示されている103の用語は、スタンダードケアよりも高度かつ専門的な看護行為であり、健康な一般消費者にとってももちろん体験はしていない行為群であり、イメージがつきにくいものであったことが考えられる。

また、プログラムドケア(母性・助産)における108の用語については、今回の調査対象者が全員未婚の男性であり、理解するには困難を極めたのではないかと考える。

5. おわりに

今回使用した用語のリストは、看護職を対象にした調査は既に終わっており、用語としては妥当性を保っているものである。しかし、これらの用語の説明を一般消費者にとって分かりやすいものにしていくためには、今回のような消費者を対象とした調査は不可欠であると考えられる。今回の用語解説の精選作業の過程において、消費者が看護実践行為の用語に対して理解を示されなかったものもあり、それらについては、看護職が具体的に行為の内容や、看護職の思いを語り具体的な事例を示していくことで、消費者の理解を得る場面が多かった。看護者側の説明と消費者側からの「このように説明してもらえば理解できる」というやりとりのなかで終息をみた内容を最終的な用語解説として資料として示している。

6. 討論内容と今後の課題

1. (フロアからの質問 1) 一般消費者から調査を行う前に、定義の吟味が必要だったのではないか。
(回答) 一般消費者からの調査結果から、「日本語の訂正が必要」というコメントがあり、それを受けて用語解説を検討する中で解決されていると考える。
2. (フロアからの質問 2) 看護行為マスターは、患者向けのものなのか、専門家向けのものなのか。
(回答) 専門家むけのものとして開発している。
3. (フロアからの質問 3) 大学生は一般消費者として成立するのか。
(回答) 日本語読解能力を有し、医療知識も持ち合わせている人を対象者としている。実際の臨床現場で、患者にとって用語解説をより分かりやすくしていく必要がある。
4. (フロアからの質問 4) 自己導尿など患者が自分で行うことは看護行為としては選択できない。
(回答) 看護は、全介助、部分介助、継続的観察、断続的観察というように、患者の自立度などを把握した上で実施されている。自立度を把握して、患者自身が実施できるようにすることも看護と考えるが、指導・教育との違いを明確にしていきたい。

「保健・医療福祉領域の電子カルテに必要な看護用語の標準化と
事例整備に関する研究」公開報告会 資料

2005年3月26日(土)

看護行為マスター

看護実践行為内容を患者・クライアントに提示していくために

水流 聡子(東京大学大学院)

井上真奈美(山口県立大学)

内野 聖子(東京医科歯科大学
大学院博士後期課程)

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(1)

第1段階:スタンダードケア、プログラムドケア(一般)、
プログラムドケア(母性・助産)、プログラムドケア(在宅)

第3階層用語(看護実践行為名称)の意味する内容を
記述し、定義付けを行った

- ◆ 定義は、用語抽出プロセスを理解する専門家が担当
した
- ◆ 特に気を付けたこと
 - ・簡潔である
 - ・分かりやすい

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(2)

◆Medis(医療情報システム開発センター)からの要望

「患者の視点から見て、分かりやすい解説を」

第2段階:各領域の専門家から収集された用語を一般消費者に理解できるように「用語解説」として、専門家の作成した用語の定義をもとに加筆・修正を行った

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(3)

看護行為マスターを一般公開するための解説精選
一般の人が理解できるかについて調査する

◆一般消費者への調査

- 1.対象者の選出:一般消費者4名
- 2.用語とその解説文を照らし合わせ、用語の意味が理解できるか否かについてチェックする
- 3.文章表現として不適切なものを抽出、修正
- 4.修正可能なものについては、分かりやすく書き直す

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(4)

◆調査の留意点

- 1.スタンダードケアの「清潔」「排泄」から10用語ずつ選択して、まず、対象者に作業をしてもらった
2. 必要な作業への理解を確認してから、その後の作業を進めてもらった

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(5)

◆調査の配慮点

- 1.対象者が理解しづらいことに対して、コメントを記入後に、調査者が解説をした

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(6)

◆調査結果:配付資料参照

- 1.「一般消費者によるスタンダードケア、プログラムドケア(一般、母性・助産、在宅)の用語解説へのコメント内容一覧表
- 2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(7)

- 1.「一般消費者によるスタンダードケア、プログラムドケア(一般、母性・助産、在宅)の用語解説へのコメント内容一覧表
 - 1.意味不明
 - 2.(表現が)不適切
 - 3.文章構成(上の問題がある)

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(8)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

N=4 複数回答あり

項目 内容	スタンダードケア	プログラムドケア(一般)	プログラムドケア(母性・助産)	プログラムドケア(在宅)
A.用語数	260	48	126	58
B.コメントがある用語数	145	32	39	38
C.用語解説へのコメント数合計	189	38	54	40
(B/A):コメントがついた用語の%値(この値が高いことは、一般消費者にとって理解しにくい用語が多いことを示す)	55.7	66.7	31.0	65.5
(C/B):1つの用語に対するコメント数の割合(この値が高いことは、一般消費者にとって理解しにくい理由が1つの用語に対して2点以上ついていることを示す)	1.30	1.13	1.38	1.05

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(9)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

コメントがついた用語の%値を見てみると、以下の通りの結果であった。この値が高いことは、一般消費者にとって理解しにくい用語が多いことを示すものである。

1. プログラムドケア(一般)
2. プログラムドケア(在宅)
3. スタンダードケア
4. プログラムドケア(母性・助産)

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(10)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

1つの用語に対するコメント数の割合を見てみると、以下の通りの結果であった。この値が高いことは、一般消費者にとって解説を理解しにくいとする理由が1つの用語に対して2点以上ついていることを示すものである。

1. プログラムドケア(母性・助産)
2. スタンダードケア
3. プログラムドケア(一般)
4. プログラムドケア(在宅)

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(11)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

1.スタンダードケア

コメントがついた用語の%値が3番目に高く、1つの用語に対するコメント数の割合は2番目に高いという結果であった。コメントがついた用語数は半数強という結果であったが、その解説の理解しにくさの理由は比較的分散していたという結果が示された。

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(12)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

2.プログラムドケア(一般)

コメントがついた用語の%値が一番高く、1つの用語に対するコメント数の割合は3番目に高いという結果であった。分からない言葉を使用した用語もしくは解説であったこと、また、解説の理解しにくさの理由は分散していないことが示された。

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(13)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

3.プログラムドケア(母性・助産)

コメントがついた用語の%値が一番低く、1つの用語に対するコメント数の割合が一番高いという結果であった。このことは、一般消費者にとって理解しにくい専門的用語が並んでいたことが考えられる。

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説(14)

2.項目ごとの用語解説へのコメント数の特徴分析結果

4.プログラムドケア(在宅)

コメントがついた用語の%値は2番目に高く、1つの用語に対するコメント数の割合が一番低いという結果であった。比較的、コメントがついた用語は多かったが、解説の理解しにくさの理由は分散していないことが示された。

患者・クライアントに向けた 看護実践行為の用語解説 (最終版)

＜看護実践用語標準マスター＞
2005年3月14日版(本日資料)

スタンダードケア
プログラムドケア(一般領域)
プログラムドケア(助産・母性領域)
プログラムドケア(在宅領域)

第3章 看護観察マスター構築と利用の実際

領域リーダー：水流 聡子（東京大学大学院）
研究協力者：内山真木子（聖路加国際病院看護部）
渡邊千登世（聖路加国際病院看護部）

1. はじめに

今回の研究は、平成 14-15 年度科学研究費補助金基盤研究『電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発』で、電子カルテのための各種標準マスター開発を意識し、看護にその裁量がある看護行為のモデルフレームが研究され、看護実践用語標準マスターが構築された。その際に看護の重要な行為として観察・測定があり、看護の観察の価値を高めるためにも具体的観察項目およびその結果表記の用語の整備が重要と指摘され、本研究に至った。

2. 看護観察マスターの開発の経緯

開発にあたってはまず各病院のマス・テキスト・辞書等から初期たたき台をつくり、H 大学病院において臨床現場チェックを行った。チェックを行ったたたき台を活用し、H 大学病院および S 病院で開発中の電子経過表や看護計画および実施結果に使用する看護観察マスターおよび結果表記マスターを作成した。次にそれぞれのマスターをマッチングし、唯一一つの観察項目とするすり合わせを行った。その後データ構造を検討・決定し、そのルールに合わせてマスターの再構築を行った。

一つ一つの用語を決めるに当たっては、意味が同じであっても実際には地域や個々の病院によって用語が多種に渡り、また領域によってはその領域でしか意味がわからない言葉があった。かなりの時間と人力を要しそれら一語一語を吟味・検討を繰り返し、約 1500 語の看護観察マスターを構築した。

3. 看護観察マスターの構造

看護観察マスターは、『検索分類』『看護観察項目』『観察結果』の 3 つのパーツで構成されている。

1) 観察項目

看護観察項目は、個々の観察名称を表している部分である。ICNP の看護現象分類の A 軸“看護実践の焦点” E 軸“位相” F 軸“身体部位”を活用し、そこに“その他”の軸を組み合わせて一つの観察名称を構成した。また観察目的を明確にするために、例えば疼痛であれば観察目的が傷みの程度なのか、

部位なのか、性質なのかを明確にするため観察名称をそれぞれに分けている。また観察の状況に合わせ観察粒度の違う項目の採用、患者の自覚症状や身体・精神的観察項目だけでなく、呼吸器や牽引等が安全に装着されているかなど、治療・ケアを行う上で安全・管理に必要な観察項目も含めた。

2) 観察結果表記

観察結果は、個々の観察項目の結果表記を表したものである。できるだけ列挙した結果表記から選択できるようにし、表記用語を統一するようにした。また表記単位 (m, g) が 2 種類あるものは同一名称でもマスターを 2 種類に分け、また判断の曖昧さを少なくするために 4 段階評価の採用、さらに認知されている評価基準を採用するようにした。

3) 検索分類

検索分類は、実際に必要な観察項目を抽出するための部分で、8 種類の観察タイプに分け、一つの観察名称に複数の観察タイプから導き出せるようにした。

4. 看護観察マスター活用の実際

S 病院での活用の実際を紹介する。まず問題ごとに予測される看護観察項目をマスターから選択しセット化する。実際に患者に適応する際に、セットの中から患者に必要な観察項目を選択し具体的にいつ・何回行うかを加え登録する。登録された内容が日々のケア・治療で利用する画面に表示され、看護師はその画面から実践すべき観察内容を確認実践し、実施後観察結果表記から選択し観察結果の入力を行う。入力された結果は、経過表に自動的に表示され記録となる。経過表には一観察項目が、共通の評価結果で一行に記載することができ、患者の状態や状況等の変化が経時的変化として捉えやすくなっている。また以前は見えにくかった看護師の観察行為が、見えやすく可視化できるようにもなった。

5. 看護マスターの今後の展開

作成までの経過を経て、電子カルテ導入の個々の病院が、実際に独自開発しマスターを作成する困難さも実感した。今回約 1500 語の看護観察マスターを作成した。このマスターは未成熟なものであり、今後多

くの方の意見を集めより完成度を高めるため、医療情報システム開発センターにて、近日評価版の一般公開へ向けて準備している。

また今回は、どの看護師も利用できる観察項目用語の整備に努めたが、今後は高度専門看護を行う際に必要とする看護項目も作成する予定である。

平成15-16年度 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業
「保健・医療・福祉領域の電子カルテに必要な看護用語の標準化と事例整備
に関する研究」

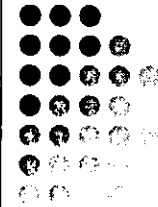
看護観察マスター

○内山 真木子¹⁾ 水流 聡子²⁾

渡邊 千登世¹⁾

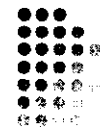
1) 聖路加国際病院

2) 東京大学大学院

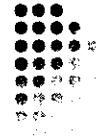


目的

電子カルテ等で実際に利用する看護観察行為の具体的観察項目用語の標準化し、看護観察マスターを作成する。



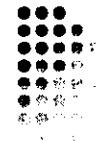
看護観察マスタの開発経過



- ① 各病院マスタ・テキスト・辞書等から、初期たたき台づくり
- ② ①をH大学病院において臨床現場チェック
- ③ ②をH大学病院とS病院、それぞれ独立に設計・開発・導入しようとしていた電子経過表の観察計画・実施後の看護観察結果の表記部分のマスタとして、活用していただく
→両病院にて、不足する部分を補充
- ④ H大学病院マスタ③とS病院マスタ③をマッチング
- ⑤ ④を唯一件の観察項目とする、すり合わせ作業
- ⑥ データ構造の検討・決定
 - ◆表記語…観察項目名称(修飾語+観察の焦点)
観察結果の表記方法(連続量なら単位、カテゴリなら区分・その表記)
 - ◆データ格納…観察の焦点・部位・方位・その他の4軸
- ⑦ ⑤を⑥のルールで再構築
- ⑧ 看護用語の標準化作業(評価版)公表への調整・整備

3

看護観察マスターの構造



○ 構造概念図

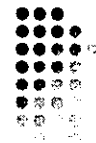
検索分類	看護観察項目	観察結果
------	--------	------

○ 具体的項目

観察名称管理 項目番号(コード)	検索分類								追加専門用語 観測分類	観察名称	名称ふりがな	データ格納形態			
	結果1	結果2	結果3	結果4	結果5	結果6	結果7	結果8				焦点	部位	位相	その他
評価基準	結果管理 番号	データ型	単位	結果1	結果2	結果3	結果4	結果5	結果6	~	結果18				

4

看護観察マスター 【看護観察項目】



○ ICNPとの連携

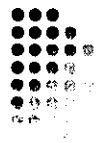
用語作成にあたり、ICNPの看護現象分類構成のA軸“看護実践の焦点”、E軸“位相”、F軸“身体部位”を活用している。

観察名称	焦点	部位	位相
焦点(位相+部位、その他)	焦点	部位	位相
発赤(左乳房)	発赤	乳房	左

焦点・部位・位相・その他の4つの軸を組み合わせ、観察名称が構成されている。

5

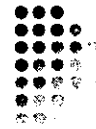
看護観察マスター 【看護観察項目】



- 観察項目の明確化
疼痛・・・程度、部位、性質、持続時間、
- 粒度の違う項目
例)貧血症状:ふらつき、動悸、眼球結膜蒼白
- 看護観察項目の範囲
 - ・患者の訴えや自覚症状
 - ・患者の疾病や不安に関連した看護師が観察する身体・精神的観察項目
 - ・治療・ケアを行う上で安全・管理のために必要な観察項目

6

看護観察マスター 【観察項目と結果表記】



観察名称	評価基準	看護観察 タイプ	データ型	単位	観察結果						
					結果1	結果2	結果3	結果4	結果5	結果6	
ドレーン排液量 (右側)		00000	数値型	ml	0000						
ドレーン排液性 状(右側)		00001	列挙型		血性	茶褐色 性	黄褐色 性	褐色性	膿汁様	濁液様	膿性
ドレーン排液性 状(左側)		00002	文字型		コメント						
ドレーン排液色 調(右側)		00003	列挙型		透明	白色	乳白色	灰白色	黄色	黄褐色	茶褐色
ドレーン排液色 調(左側)		00004	文字型		コメント						
ドレーン排液量 (両側)		00005	数値型	ml	0000						

結果表記の統一

通尿性観察		00010	列挙型		-	±	+	++			
尿量(排尿時)		00011	列挙型		-	±	+	++			
尿色		00012	列挙型		-	±	+	++			
尿管挿入		00013	列挙型		-	±	+	++			
尿管挿入		00014	列挙型		-	±	+	++			
尿量		00015	列挙型		-	±	+	++			

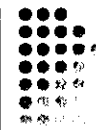
判断のばらつきを防ぐ
4段階評価

褥瘡(観察)	DESIGN	00020	列挙型		d0	d1	d2	D3	D4	D5	
褥瘡(退出時)	DESIGN	00021	列挙型		e0	e1	e2	E3			
褥瘡(大さじ)	DESIGN	00022	列挙型		s0	s1	s2	s3	s4	s5	S6
褥瘡(尺側)	DESIGN	00023	列挙型		0	1	2	3			

評価基準の採用

7

看護観察マスター 【検索分類】



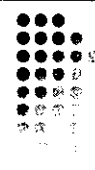
- 作成した用語を検索するにあたって8種類の観察タイプに分類した。

1. バイタル
2. IN TAKE
3. OUT PUT
4. 自覚症状・訴え
5. 系統・機能別観察
6. 精神・心理
7. 特定対象
8. その他

* 観察項目によっては、複数の観察タイプに所属する項目にある。

8

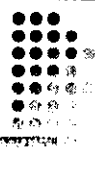
看護観察マスター 【検索分類】



看護名称 看護番号	看護分類								看護番号 看護区分	看護名称
	検票1	検票2	検票3	検票4	検票5	検票6	検票7	検票8		
31001490	0	0	0	12	0	0	1	0	運給(右乳房)	
31000684	0	0	0	18	7	1	0	0	運給(手指)	
31000010	0	1	0	4	0	0	0	0	飲水量(食事)	

大分類	中分類	大分類	中分類	大分類	中分類	
1. バイタル	0 該当なし	4. 自覚症状・訴え	0 該当なし	6. 系統	0 該当なし	
	1 バイタル		1 疼痛		1 呼吸	
	2 IN TAKE		2 腫脹		2 循環	
	1 食事		3 活動		3 排泄	
	2 経管栄養		4 食事		4 消化・吸収	
3 輸液	5 尿		5 生殖			
4 輸血	6 便		6 運動			
5 その他	7 出血		7 神経系			
3. OUT PUT	0 該当なし		8 嘔気・嘔吐		8 視覚	8 聴覚
	1 尿		9 浮腫		9 嗅覚	9 触覚
	2 便		10 発汗		10 痛覚	10 温度
	3 出血		11 腫脹		11 四肢	
	4 嘔吐		12 硬結	12 皮膚・爪		
	5 排泄量		13 鬱滞	6. 精神・心理	0 該当なし	
	6 排泄性状		14 肥満		1 精神・心理	
	7 排泄色調		15 発汗	7. 特定対象	0 該当なし	
	8 排泄臭気		16 肥満		1 肥満期	
	9 排泄液		17 便秘感		2 小児・新生児	
10 その他	18 その他	3 在宅療養				
			4 使用中の機器・材料			
			0 該当なし			
			1 その他			

電子カルテにおける看護観察マスター活用の実際(看護計画; St.luke's NCO)



The screenshot displays a software interface for nursing observation. At the top, there are fields for patient information and a date range (11/25 - 11/27). Below this, there are several tabs and a main table. The table has columns for observation items (e.g., Vital Signs, Intake/Output, etc.) and rows for different dates. Each cell in the table contains a circular indicator (a dot) representing the status of the observation for that item on that date. The interface also includes various buttons and a sidebar with additional options.

電子カルテにおける看護観察マスター 活用の実例(看護実践と記録)



The screenshot displays a patient's vital signs over time. A line graph plots heart rate (HR) and blood pressure (BP) from 11:00 to 12:00. Below the graph is a table with columns for '項目' (Item), '測定値' (Measurement Value), and '単位' (Unit). A red oval highlights a section of the table containing numerical data.

項目	測定値	単位
心拍数	110	回/分
血圧	110/60	mmHg
呼吸数	18	回/分
SpO2	98	%
体温	36.5	℃

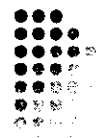
電子カルテにおける看護観察マスター 活用の実例(看護記録)



This screenshot shows a different view of the EMR interface. Two callout boxes on the left point to specific areas of the data table. The top box, labeled '看護観察マスター', points to a row of data. The bottom box, labeled '看護行為マスター', points to another row of data. A red oval highlights a portion of the table.

項目	測定値	単位
心拍数	110	回/分
血圧	110/60	mmHg
呼吸数	18	回/分
SpO2	98	%
体温	36.5	℃

看護観察マスターの今後の展開



- 医療情報システム開発センターにて、評価版を近日公開予定
<http://www.medis.or.jp/>
- 現在作成の看護観察項目は、全ての看護師が行う観察項目としたが、今後は高度専門看護を行う際に必要とする観察項目も作成する予定である。